

さわやかトカラ情報

発行元 十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771
E-mail toshima-ky@tokara.jp

われ以外、皆わが師なり

宝島小・中学校長 浜田 勝也

小学校の教師として教壇に立ってから26年。その時々には、長かったような気もするが、「光陰矢の如し」とは、よく言ったもの。今思えば、あっという間に過ぎたようである。そして、26年前のことも今では懐かしく思い出されてくる。

昭和61年3月。同級生より遅れて大学を卒業した。卒業したことで教職の道に就くことを知らせるために祖母宅を訪ねた時、祖母は私にこう語った。「お父さん、お母さんが2人で卒業証書を見せに来られたよ。勝也くんの卒業を一番喜んでる2人だよ。感謝せんとね」

その言葉は重かった。私はその時、両親への恩返しは、教職の道を真剣に精一杯働くことと決めた。それは、「私の進路を強く定めてくれた一言」といっても過言ではない。私にとって正に師の言葉であった。そんな祖母も13年前に他界。享年93歳。

就職が決まった時、妻の父親から次のようなメッセージが届いた。「“先生”と呼ばれても、子どもにとっては、確かに先に生まれているから“先生”である。しかし、親や地域の方にとっては、まだまだ“先生”ではない。だからこそ、謙虚に学びなさい」と、ありがたい言葉をいただいた師である。

初任地は、鹿屋市立鹿屋小学校である。新規採用1年目は、2年生を担当した。私は鹿屋小1年目であるが、子どもたちは鹿屋小2年目であり、私の1年先輩である。どこに何があるのか、休み時間のたびに案内されたことを昨日のように懐かしく思い出す。可愛らしい師である。

先輩にも恵まれ、様々なことを学ぶことができた。教材研究の仕方から家庭訪問での失敗談・・・。
ある先輩が「何か用事があった、実家の近くに行った時は、必ず時間を見つけて、両親の顔を見に寄りなさい」と、話されたことを鮮明に覚えている。実は、この先輩、用事があった実家の近くまで行ったのだが、「今日は時間がない。寄るのは次でいいや」と、思っ立ち寄りなかつたとのこと。数日後、先輩の母親が急病で倒れ、二度と会うことができず、「次でいいや」と思った自分を責め続けたとのこと。そんな思いを私に話されたのである。それ以来、私は実家の近くを通る時、両親の顔を見に立ち寄ることにしている。先輩の教え。今でも心に残る先生として感謝してやまない。

心に残っている方との出会いやその言葉。それは、時に自分を支えてくれる。そして、時には指南役を果たしてくれる。出会いとともに得ることができた宝物の一つである。

あれこれ考えているうちに、50代もあっという間に過ぎ去っていくような気がする今日この頃である。

【 定例教育委員会開催 】

平成24年3月定例教育委員会は、3月19日(月)に役場4階会議室において開催されました。教育長の平成23年度教育委員会行政報告の後、平成24年度教職員人事異動、平成23年度補正予算及び平成24年度当初予算案、ほか4件について審議され、提案された案件について全て承認されました。

【 お友達中之島小学校に転入！ 】

3月に小林葵さんが、中之島小学校の2年生として転入されました。1月転入の中島大志さん同様、今、仲間や先生方と楽しく学校生活を送っています。これまでと比べ不自由なこともあるかもしれませんが、不自由な中での暮らしさをぜひ味わってほしいものです。

【 子ども読書の日 】

4月23日は、子ども読書の日です。



子どもたちの読書活動を推進しましょう。

スローガン：たくさん読もう。楽しく読もう。

【 村内小・中学校卒業式挙行 】

村内小・中学校の卒業式は、それぞれの島で厳かに挙行されました。

3月6日(火)に挙行された中之島小中学校の卒業式には、副村長が出席して祝辞を述べられました。



3月6日(火)の口之島小中学校、3月17日(土)の小宝島分校、3月22日(木)の宝島小中学校では、教育長が告辞を述べました。なお、他の2校には、定例村議会開会中のため、出席できませんでした。

中学校卒業生は8人でしたが、全員志望する高校に進学しました。

【 入賞おめでとうございますー持ち味を生かす子どもたちー 】

平成23年度南九州美術展 平面構成の部

入選 小櫻斉生(諏訪之瀬島分校中2年)

第26回鹿児島県小学校書写展

毛筆の部 推薦(小倉賞)・森文音(小宝島分校小4年)

特選・森祐太(小宝島分校小5年)

入選・東真優(小宝島分校小3年)

・宮山雄輝(小宝島分校小6年)

佳作・清水宏太郎(小宝島分校小3年)

硬筆の部 特選・森清香(小宝島分校小1年)

・岩下孟司(小宝島分校小1年)

入選・東桃香(小宝島分校小1年)

【 先生方の教育論文審査結果 】

日置・鹿児島郡地区主催募集の教育論文・教育実践記録に、村内の先生方から多数の応募がありました。審査の結果、推薦(校長・教頭)12人(15点)、特選10人、入選35人の計57人60点という素晴らしい応募状況でした。また、7校すべてが学校賞にも輝きました。先生方一人一人の教育実践に心より謝意を申し上げます。

次に、特選の先生方を紹介します。

養護教諭：山田浩美(口之島小)

教諭：海老原悠(中之島小)、白濱啓明(諏訪之瀬島中)

池林理恵(悪石島小)、上奥剛(悪石島小)

東郷有家(悪石島小)、鶴長隆盛(悪石島中)

岡元寿美礼(小宝島小)、里中卓麻(小宝島小)

二宮浩一(宝島中：記録集「波動」に掲載)

【 教職員の異動 】

平成24年度教職員の異動発表は、3月22日(木)に行われ、本村関係では、校長2人、教頭1人、教諭・養護教諭・事務職員31人、計34人が異動となりました。

在任中のひたむきな御尽力にただただ感謝しきりです。なお、中之島小学校在籍で教育委員会勤務の江口勉事務職員は、県立図書館へ異動となりました。

ごあいさつ 江口勉事務職員

平成22年度から2年間、お世話になりありがとうございました。十島村のいっそうの発展を御祈念いたします。

【 子どもたちの作品 】 (南日本新聞「若い目」<H23.12.11>より)

しゅうかくさい

悪石島小学校2年 つる長しゅん太ろう

ぼくたち小学生5人は、5月からサツマイモをそだててきました。あく石じま小中学校では、そのサツマイモをしゅうかくして、しゅうかくさいをします。しゅうかくさいでは、とったサツマイモをつかってりょうりをするので、ぼくは何をつくるのかたのしみにしていました。

ぼくは、やきイモをつくるかかりでした。イモをたわしであらい、アルミホイルでつつんで、やくところにはこびました。じゅんぴがおわってから、イモのようすが気になりやいているところを見ていると、おいしくやけるかなと、とてもたのしみになってきました。

りょうりができたら、島の人もおいしよにたのしくたべました。やきイモはホカホカであまくて、とてもおいしかったです。来年のしゅうかくさいもたのしみです。

【 十島村の小・中学校からのメッセージ 】

中之島小・中学校 教頭
西田 昌史

小・中併設の中之島小中学校に赴任する際、私が感じた不安は、「中(小)学校の教師に小(中)学校の授業が勤まるのか?」「複式の授業はできるのか?」等ですが、周りの先生方、他島の先生方のアドバイスが頂けるので心配は要りません。また、新しいことを研修できる楽しさがあります。

生活面では、食材の入手が心配の一つでしたが、生協を始めインターネットでの通信販売が利用できるため、不自由さはありません。医療面でも診療所やドクターヘリがあるので心配いりません。他に困るようなことがあっても、地域の援助で、解消されます。

教育活動では、極少数であることから、常に子どもと向き合っているため、子どもの成長に喜んだり驚いたりする毎日を送れます。子どもや地域の方々から教えられることも多々あり、私たちが人間的に成長させられています。

教職員仲間である「あなた」へのメッセージ
離島の子どもにとって、教師は、色々な世界に導いてくれる「師」です。子どもたちは多くの「師」から学ぶことを楽しみにしています。ぜひ、あなたも、子どもたちに離島における教育